

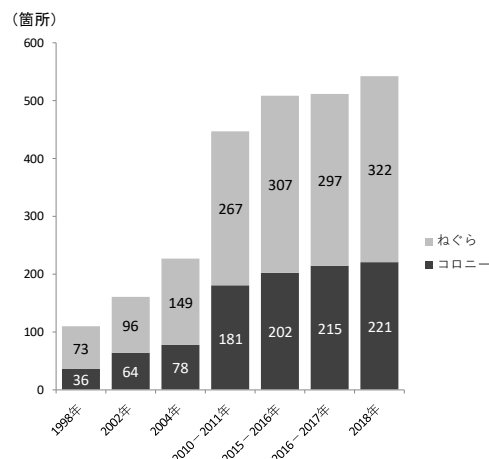
カワウの生息状況について

■全国におけるカワウのねぐら・コロニーの箇所数

2018 年の調査で一度でもカワウによる利用が確認されたねぐら・コロニーの箇所数は、1998 年以降増加している。網羅的な調査が実施されていない都道府県があることに留意する必要がある。

図1-1. 全国のカワウのコロニーとねぐらの箇所数の変化

単年ないしは連続 2 年の期間で 1 度でも利用されたことのあるねぐら・コロニーの数をカウントした。2011 年以前は加藤なえ氏の調査に基づく。以後は、広域協議会が設立している東北、関東、中部近畿、中国四国については、モニタリングデータを使用した。北海道については、鳥類調査の関係者への聞き取りによる情報を使用した。九州と沖縄については、各県への聞き取りによる情報を使用した。



■関東、中部近畿、中国四国カワウ広域協議会のカワウの生息状況

ねぐら・コロニーにおける個体数（以下「個体数」という。）について、継続的に調査を実施している関東、中部近畿、中国四国カワウ広域協議会における個体数の推移を図 1-2～図 1-4 に示す。関東カワウ広域協議会では 2006 年以降大きな個体数の変化はない。中部近畿カワウ広域協議会については、2008 年以降、個体数が継続して減少している状況にある。これは、主に滋賀県において個体数調整等の取組が実施されたことにより、個体数が減少したためであると考えられる。中国四国カワウ広域協議会については、調査体制が整ってきた 2015 年以降、個体数に大きな変化はみられていない。

図 1-2. 関東カワウ広域協議会で継続的に調査されている都県のねぐら・コロニーにおける個体数の推移。

埼玉県と神奈川県では、全ねぐら・コロニーが調査されていない期間があるが、個体数の多いねぐら・コロニーでは調査が継続的に実施されている。

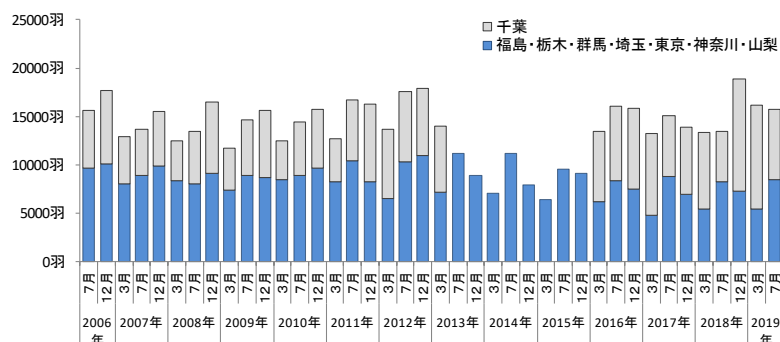


図 1-3. 中部近畿カワウ広域協議会で継続的に調査されている府県のねぐら・コロニーにおける個体数の推移。

岐阜県と愛知県では、全ねぐら・コロニーが調査されていない期間があるが、個体数の多いねぐら・コロニーでは調査が継続的に実施されている。

2008 年 7 月期の個体数が一時的に突出して多いのは、この年に滋賀県（調査は 9 月に実施）で個体数調整が実施されなかったことによる。

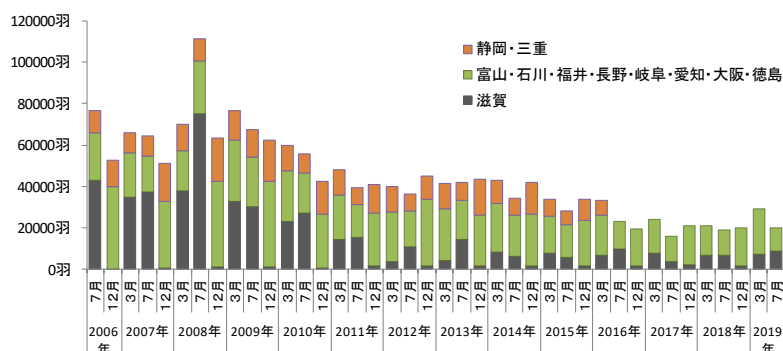
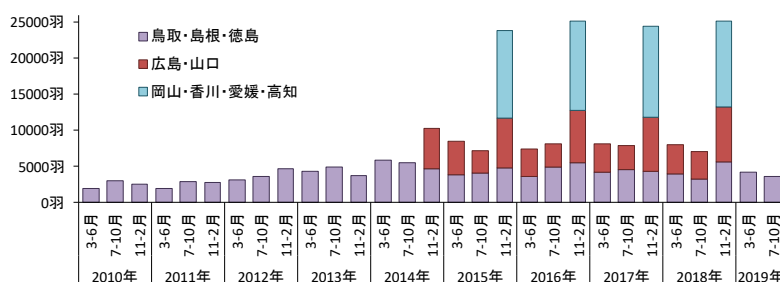


図 1-4. 中国四国カワウ広域協議会で継続的に調査されている県のねぐら・コロニーにおける個体数の推移。



■水系単位におけるカワウの動向分析

カワウの動向を把握するため、水系ごとにねぐら・コロニーの個体数及び営巣数を集計した。なお水系の規模に応じて、上流と下流を区切って集計した。また、水系として集計できないものは、地域ごとにまとめて集計した。これらの集計結果を地図上に水系ごとのグラフを重ね、夏期と冬期のデータからカワウの季節移動を、春期の個体数及び営巣数のデータからカワウの繁殖状況を捉えた。



図 1-5. ねぐら・コロニーの分布と地域の名称

○はねぐら・コロニーの位置を示しており、水系区分ごとに色分けをしている。

(1) 水系単位におけるカワウの季節移動（夏冬間）

2016 年冬～2019 年夏の期間における夏と冬の個体数を図 1-6 に示す。カワウの個体数が多いのは、東京湾周辺（利根川下流域、荒川・旧江戸川水系）、伊勢・三河湾周辺（浜名湖・都田川水系、矢作川・境川水系、庄内川水系）、琵琶湖周辺、瀬戸内海周辺（大和川・石津川・大津川水系、明石川・加古川水系、旭川水系、広島湾・錦川水系、厚東川・樫野川・佐波川水系、吉野川水系、香川県内陸部、愛媛県中央部）などで、湾や湖などに流入する大きな河川がある地域である。これらの地域の夏と冬の個体数を比較すると、琵琶湖周辺で夏の個体数が多く、浜名湖・都田川水系、矢作川・境川水系と庄内川水系、明石川・加古川水系、厚東川・樫野川・佐波川水系で冬の個体数が多い（注：茨城県、岡山県、香川県内陸部では、夏の調査が行われていない。）。

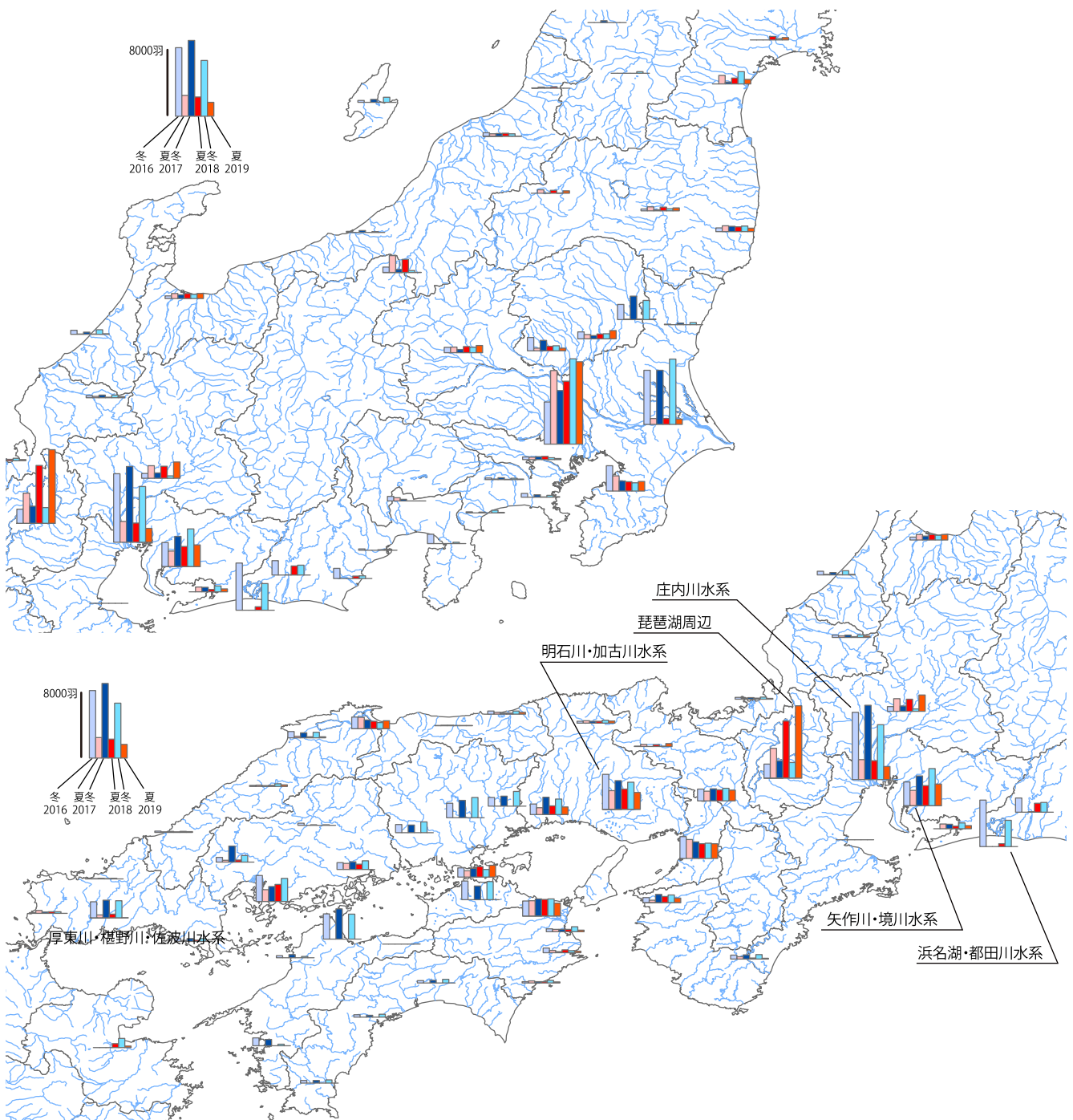


図 1-6. 水系ごとに集計したねぐら・コロニーにおけるカワウの夏と冬の個体数の比較

(2) 水系単位におけるカワウの繁殖状況（春）

2015 年から 2019 年におけるカワウの春の個体数を図 1-7 に、営巣状況を図 1-8 に示す。春期の調査は主に 3 月ないしは 5 月に実施されており、この時期は巣立ち前の営巣数のピーク時期にあたる。この時期の調査は、巣立ち雛が加入する前の成鳥の個体数を表している(3 月に調査が実施されている場合、調査後に別のコロニーに移動して営巣する個体もいる)。

各水系における春の個体数と営巣数についても、夏と冬の個体数同様、東京湾周辺、伊勢・三河湾周辺、琵琶湖周辺で多いが、瀬戸内海周辺は冬の個体数ほどには多くない(図 1-7、図 1-8)。利根川下流域、荒川・旧江戸川水系で増加しており、千葉県中南部で減少している。

各水系における春の営巣数についても、利根川下流域、荒川・旧江戸川水系で増加しており、春の個体数の増加と対応している(図 1-8)。

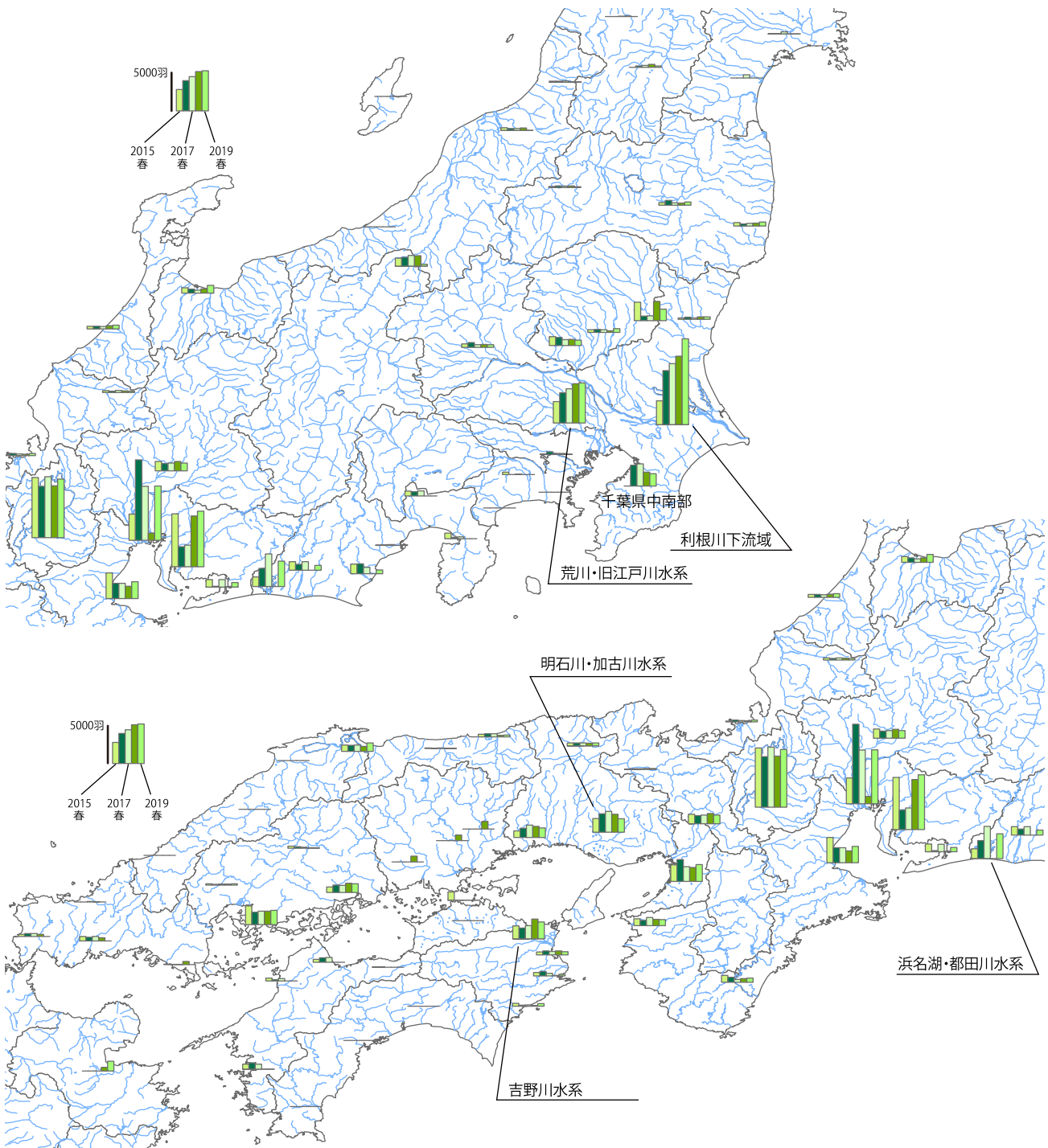


図 1-7. 水系ごとに集計したねぐら・コロニーにおけるカワウの春の個体数の推移

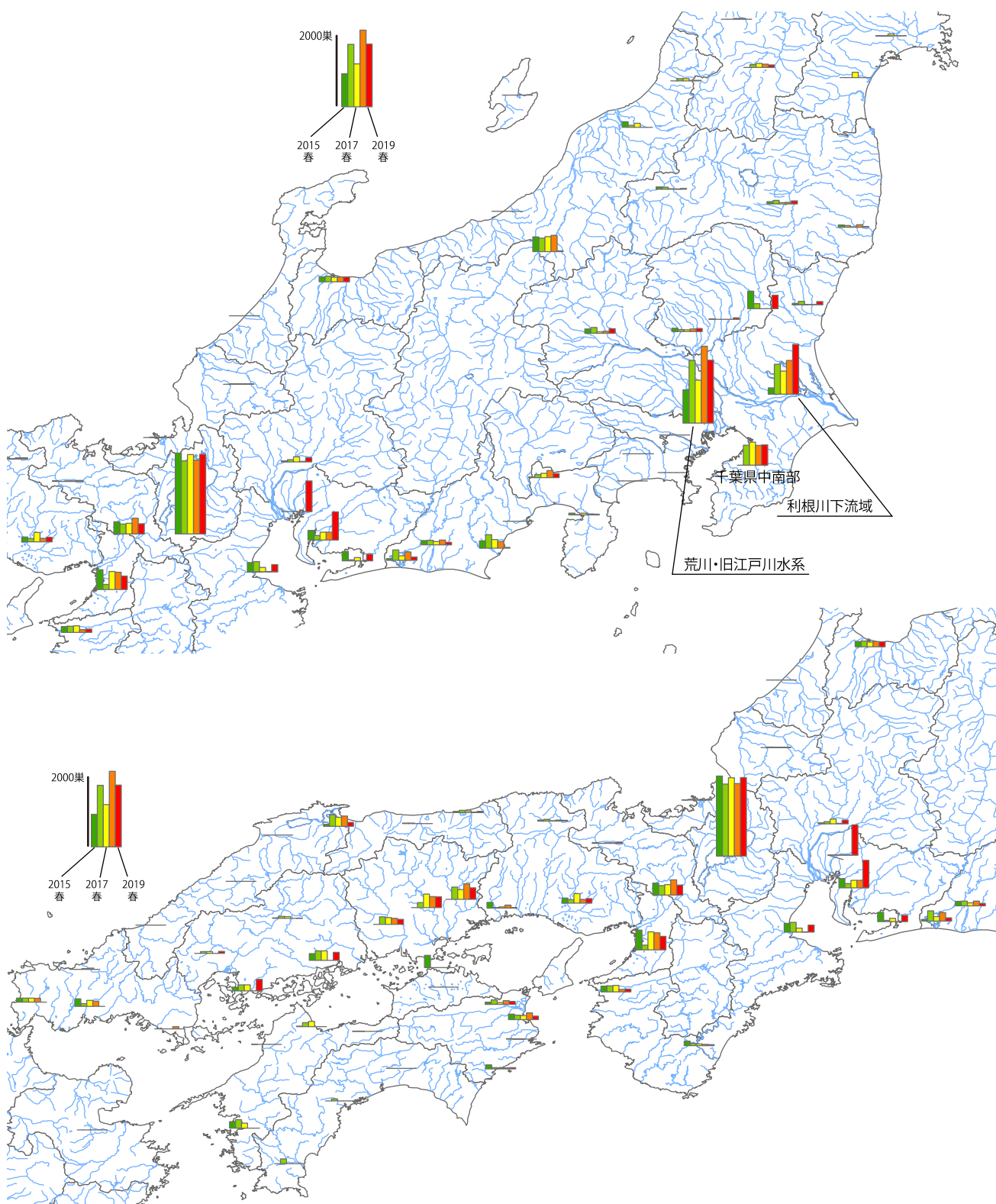


図 1-8. 水系ごとに集計したねぐら・コロニーにおけるカワウの春の営巣数の推移